

# 形

三年  
 画数 7  
 筆順 ニ 开 形  
 オン ケイ・ギヨウ  
 カたち・カタ

成り立ち



木型まがたのわくぐみのかたちをあらわした「开ケイ」と、かみの毛のかたちをあらわした「𠂔ミツ」とを組み合わせてつくった字で、「髪型かみがた」といういみの字です。

いまは、ひろく「型かた」や「形かたち」のいみにつかいます。

〔型〕は、「土型つちがた」が本義で、「木型まがた」は「模も」である。

合わせて、「模型もがた」という。ケイは漢音で、ギヨウは呉音である。やはり、呉音は、「人形じんがた」「形相かたち」など、古くからの読み慣わしの定着したものに限られていて、漢音で読まれるものが多い。

漢音で「と」発音されるものは、呉音では、たいてい「と」である。京浜↓京都。父兄↓兄弟。経書↓お経。境内↓国境。卿相↓公卿。生徒↓一生。定刻↓定規。名誉↓大名。命令↓律令

使い方

▽人の形をしたおもちゃなので人形じんがたといったものですが、「おさるの人形」といういいかたもしています。

▽水はうつわの形にしたがい、定形ていがたがありません。

熟語例

▽人形じんがた(人の形をかたどってつくったおもちゃのことです。人のいけんにうごかされやすい人のことを「あの人ひとは人形だ」ということがあります。)

▽定形ていがた(一定の形。きまった形。また、形にきまりがあるもののこと。)

▽変形へんがた(変わった形。ある形を変えてつくった形。また、形を変えること。)

▽有形ゆうがた(形が有ること。また、形が有るもの。㊦「無形むがた」)

▽地形ちがた(土地の形やようす。山や川などのようす)

▽象形しょうがた(象は「かたどる」こと。形をかたどること。もの形をそのとおりにうつすこと。)

▽象形文字しょうがたごじ(象形によってつくられた文字のこと。山や川や日や月などの文字がこれです。)

▽形声文字けいせいごじ(形のぶぶんと声のぶぶんを組み合わせた文字のこと。江・河のシが形、工・可が声です。)

使い方

▽かけっこをして、はしるはやさをストップウォッチで計はかりました。

▽らいしゅうの日ひよう日に、かぞくそろって、どうぶつえんへいく計画けいかくをたてました。

▽計算けいさんもんだいは、ぼくは、かなりとくいです。

▽三と七と九を合計ごうけいすると、いくつになりますか。

▽ぼくのおかあさんは、あみものサークルの会計けいけいがかりをしています。

熟語例

▽計画けいかく(なにかをしようと、あれこれと、てはずなどをかんがえること。)

▽計算けいさん(かずをかぞえること。)

▽合計ごうけい(かずを合わせたもの)

▽会計けいけい(おかねや、しなものものの出入りでいりを、かんりすること。)

▽計略けいりやく(はかりごと)

# 計

三年  
 画数 9  
 筆順 言 言 計  
 オン ケイ  
 カはかりるハらう

成り立ち



「かず」の「十じゅう」で「かず」といういみをあらわした「十」と、「言ういう」といういみの「言」とを組み合わせてつくった字で、「かず」をかぞえて「言う」といういみをあらわしたものです。「かず」を「かぞえる」ということです。

「ながさ、おもさ、りよう、はやさ、おんど、などを「かず」にあらわして「言う」とこともあらわしています。「かず」にあらわして「言う」とを「はかる」といいます。

また、「はかりごと」「かんがえる」といういみにもつかいます。